

第6回委員会水位管理WG(2002.9.13開催)結果報告

2002.9.20 庶務発信
(9.19版を改定)

開催日時:2002年9月13日(金)16:00~20:30

場所:ぱ・る・るプラザ京都 5階会議室B

参加者数:委員4名 河川管理者11名

検討内容および決定事項

意見交換

最終提言作業部会へむけて、水位管理WGのとりまとめ方針について、以下のことが確認された。

琵琶湖の水位操作について

- ・ 水位操作の変更をするには(変更によるデメリットを上回るだけの)メリットを示すべき。
- ・ 生態系改善のための確度の高い予測を行うため、-20cmへ下げる水位操作を現在の6月15日から弾力的に後ろにずらした場合のシミュレーション(平成4年以降)を河川管理者より提供頂きたい。それをもとに湖岸の浸水面積を算出し、産卵行動への影響を分析する。
- ・ 琵琶湖の生態系の回復には、圃場整備、内湖の減少、湖岸堤の存在、外来種などに対するいろいろな方策を組み合わせることで考えていくことが必要。水位管理もその中の1つとして改善の方向を考えていくべき。
- ・ 具体的な水位操作、変更による影響は、実際に試行してみなければわからない。手順は1~2年程度かけて生態系の基礎データ収集 それに基づくシミュレーションの実施と科学的な根拠の提示 試行の実施 モニタリング、改善。

ダムと下流について

- ・ 水位にだけ限定してダムを議論するのではなく、ダムの存在そのものによる問題点(アオコの発生等)を指摘していくべきでは。
- ・ ダムの影響としては、生物の移動経路の分断、土砂供給の遮断、があげられる。
- ・ 具体的なデータをもとに、状況の異なる個別のダムについての検討が必要。ダム下流をどういう川にしていくかで課題も異なる。
- ・ 水需要WG、ダムWG等と重なる部分多い。WG間の意見交換や合同WGなども必要では。

淀川大堰の操作について

- ・ 大阪湾全体を考えた場合に、堰下流の生態系の保全は必要か?潮の干満が堰で止められている現状では水の動きがないため、夏期に堰下流の底付近が頻繁に無酸素になり、その度に底生動物群集はごく一部の種を除いて死滅している可能性がある。現在生息している底生動物は、大阪湾の別の場所から浮遊幼生が移動、定着したものかも知れない。もしそうだとしたら、他の場所(幼生の場所)を保全した方が意味があるのでは。
- ・ 堰上流への影響(水位低下によるワンドの水抜き、間隙水の入れかえは可能か等)

河川管理者からの情報提供

河川管理者より、以下の事項について情報提供が行われ、それをもとに意見交換が行われた。

ダム貯水池の運用状況/琵琶湖の湿地面積データ、内湖の減少の推移、琵琶湖水位低下にともなうリター上水域の減少量と干陸面積の水深別算出結果/淀川大堰の放流実態と大堰下流汽水域における塩水分布状況と生物相、濁水による生物への影響、維持流量と生態系の関係/汽水域の現状と課題

次回以降のスケジュール

- ・ 次回WGは10/2開催。ダムと下流の問題、および淀川大堰と下流について検討する。
- ・ メールを通じて意見交換を行い、次回WGで最終提言作業部会(10/10開催)への報告をとりまとめる。報告の内容については、問題点の抽出、解決のための方向性を示すこととし、結論のでていない部分については、検討のために必要なデータ、調査・試行の必要性等について記述する。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。